

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例

社会福祉法人 グリーンウッド

〒198-0107 東京都西多摩郡奥多摩町白丸263 ☎0428-83-3733 FAX 0428-83-3708

あなたの”日常”そのままに
いきいきとした毎日を。



社会福祉法人グリーンウッド
特別養護老人ホーム グリーンウッド奥多摩

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の流れ（9つのステップ）
- 取組内容
- 導入による成果
- 導入に関わった職員の声
- 取組中に発生した課題と乗り越えるための工夫
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人グリーンウッド
施設名	特別養護老人ホーム グリーンウッド奥多摩
所在地	東京都西多摩郡奥多摩町
定員	100名(ショートステイ10名)
平均介護度	3.73
職員数	76名
特徴	特別養護老人ホーム グリーンウッド奥多摩は奥多摩の自然に抱かれた静かで温かな施設です。地域に根差した信頼される福祉拠点となることを目標に、日々活動しています。



導入した次世代介護機器

メーカー名	パラマウントベッド株式会社
機器名	眠りSCAN眠りSCAN (NN-1529) 眠りSCAN eye (KX-Z8192)
台数	各4台



機器導入の取組内容 導入の流れ

次世代介護機器導入の9つのステップ

準備期

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備

取組期間：
約5カ月

取組実施者：
6名

導入前期

4. 課題の見える化
5. 導入計画づくり
6. 試行的導入の準備

導入後期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

出典：平成30年度 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業 報告書から一部修正

準備期の取組内容

取組期間：令和4年10月初旬～令和5年1月15日

準備期

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備

1. 情報収集

- コロナ禍のため展示会などに行くことは難しく、主にインターネットで情報収集を行った

2. 導入の取組に対する組織全体での合意形成

- 専門の委員会にて情報を共有し、幹部職員や一般職員への丁寧な説明を行いながら、合意形成を図っていった

3. 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	メーカー様との交渉、事務手続き全般
2	リハビリ主任	チームリーダー
3	介護リーダー	次世代介護機器の普及促進
4	介護職員	次世代介護機器使用方法普及促進
5	介護主任	介護機器を使用するご利用者の選定
6	生活相談員	倫理面担当



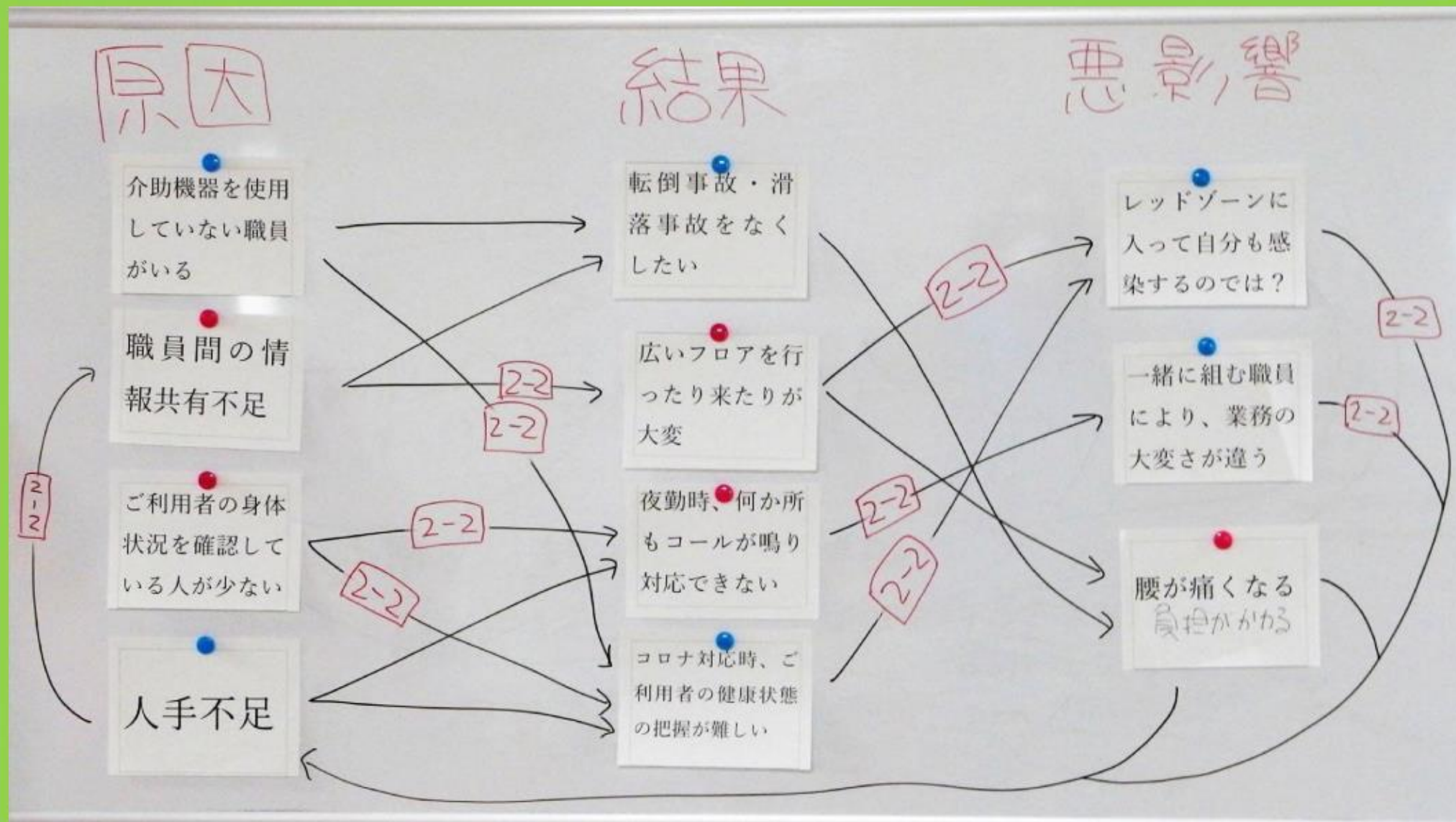
導入前期の取組内容

取組期間：1月15日～1月21日

導入前期

4. 課題の見える化
5. 導入計画づくり
6. 試行的導入の準備

4. 課題の見える化



導入前期の取組内容

取組期間：1月20日～1月25日

導入
前期

- 4. 課題の見える化
- 5. 導入計画づくり
- 6. 試行的導入の準備

5. 導入計画づくり

■課題解決に向けた道筋

- ご利用者の高齢化・重度化により看取りの機会が増え、職員の精神的・身体的負担が増大している課題に対し、非装着型センサー眠りSCANを導入することにより、ご利用者の情報は既存のPCやタブレットで確認できるようになり、離れたところからでもリアルタイムにご利用者の体調を察知することが可能となり、ご利用者の平穏と職員の精神的負担の軽減及び業務の効率化が期待できる。また収集したデータを用いることにより、アセスメント力の向上が期待できる。

■導入する次世代介護機器

- パラマウントベッド社製 眠りSCAN (NN-1529)
- " 眠りSCAN eye (KX-Z8192)



■成果を計る指標

- ①介護記録より、機器導入前と後とでの事故発生件数を比較する
- ②介護職員に対するアンケートを実施し、機器導入前後での身体的・精神的負担などを比較した

導入前期の取組内容

取組期間：1月21日～1月31日

導入
前期

4. 課題の見える化
5. 導入計画づくり
6. 試行的導入の準備

6. 試行的導入の準備

- 当施設内での使用推進のため、かかわる職員の役割分担を決定
- 当施設内での機器使用基準と使用中止基準を制定
- 機器の保管場所と保管責任者の明確化
- メーカー担当者より、まずかかわる職員が設置・使用方法についての説明を受ける
- 暫定的なマニュアル(動画及び文書)の作成

【当施設における機器使用基準と使用中止基準について】

1.機器使用基準について

- ①介護主任が使用対象者を選定し、管理者(施設長)が許可をする。
主にベッドの周囲を自身で動くことができるが、立ち上がりや歩行などの能力低下により、転倒リスクが高いと判断する方や、心拍数・呼吸数のデータから生活パターンを把握する必要のあるご利用者を選定している。
- ②カメラ映像については権利擁護委員会においてデータの検証および管理を担当する。

2.使用中止基準について

- ①機器の故障や不具合が発生した場合、職員は介護主任に当該事実を報告する。
- ②介護主任は管理者(施設長)にその事実を報告し、故障や不具合が重大なもの及び使用しているご利用者に対し異常な動作がある場合に、管理者は使用中止を決定する。
- ③職員または介護主任はインシデント報告シートを作成し、研修委員会において報告シートをもとに、その後の使用継続可否を審査し、管理者に報告し、承認・決定を得る。
- ④故障および不具合が軽微なもの、またご利用者に対し異常のないものに関しては、研修委員会が使用継続の可否を決定し、管理者の承認を得る。
- ⑤使用するご利用者の状態変化により使用にそぐわなくなった場合には、介護主任の判断にて管理者にその旨を報告し、管理者は使用を中止することができる。

導入後期の取組内容

取組期間：2月1日～2月20日

導入
後期

- 7. 試行的な導入
- 8. 小さな成功事例の共有
- 9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

7. 試行的導入

■「効果的に活用するコツ」

- 「小さな成功事例」について、介護職員のミーティングにて周知、次世代介護機器を推進する委員会のメンバー間での共有を行った。
- 小さな成功事例が得られたフロアから、他のフロアに対しても事例を伝えていくこととし、共有を図った。
- 介護職員だけではなく、看護職員やリハビリ職員の間でも共有を図った。

■「効果的に活用できなかった原因」

- 機器使用に対して消極的な職員が複数おり、これらの職員に対しての使用方法の説明や周知を完全に行うことが出来ず、効果的に活用できていない原因となった。
- 主に夜勤を行う職員とそうでない職員の間で、機器使用に対する温度差があったことも否めない。

導入後期の取組内容

取組期間：1月25日～1月31日

導入後期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

8. 小さな成功事例の共有

■ 共有した成功事例

- 日中、居室で過ごされることの多いご利用者(居室が遠く、職員が目が届きにくい)に対し試用したところ、それまではベッドや車椅子からの滑落事故が多かったのだが、試用後には事故発生件数は減少した(未然に防ぐことができる程度可能となった)。



アラーム鳴動



PC画面上で映像を確認



駆けつける必要があるかを判断



センサーで離床検知をすることができて、カメラで見守りを代用できることにより、事故発生件数の減少につながっている

導入後期の取組内容

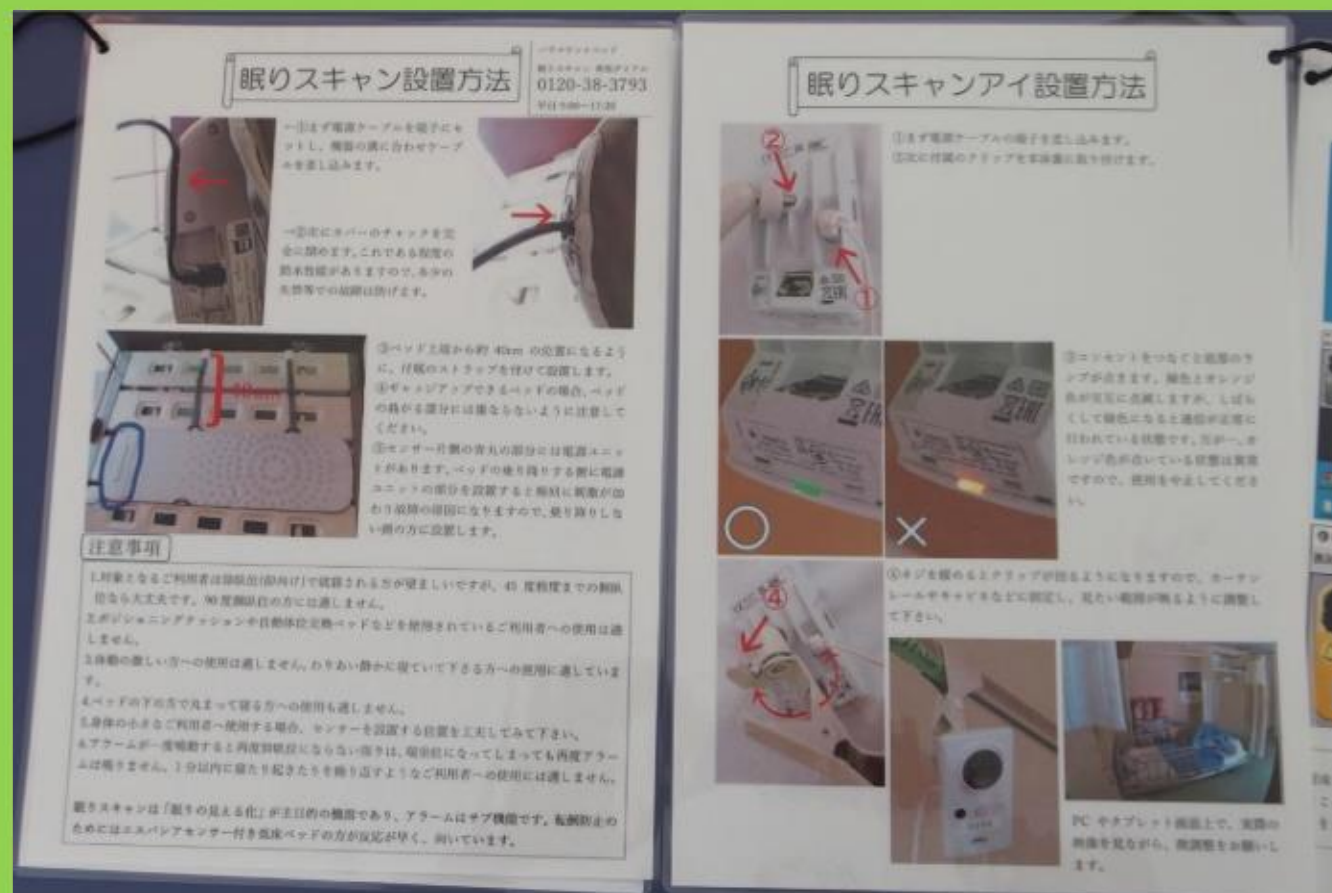
取組期間：1月24日～1月31日

導入後期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

■作成したマニュアル



- メーカー担当者の方に製品納入時に説明していただいた内容を、動画撮影・編集し施設内LANの共有フォルダに入れ、いつでも確認できるようにした(上の写真)。なおかつ施設独自のマニュアルも作成し、ラミネート加工し各フロアに配置し、いつでも確認できるようにして職員に対する周知を図った(左の写真)。

さらなる取組

- メーカーの方に納入から3週間後に再度来ていただき、それまでの間に生じた不具合や疑問点の解決を図った。センサーの反応が出やすい設置方法の確認や、その他の問題点を解消することができた。
- 倫理上必要であると考えられたため、見守り機器を使用するご利用者を対象に機器の説明を行い、ご理解の上で使用に対する同意をいただいている(右に掲載)。

「眠り SCAN」「眠り SCAN eye」及び類似の見守り介護機器に関する説明書・同意書

様

特別養護老人ホーム グリーンウッド奥多摩
生活相談員

当施設では、ご利用者の状態に応じた介護を提供できるよう努めており、「眠り SCAN」「眠り SCAN eye」等の次世代介護機器を居室に設置しております。

「眠り SCAN」はマットレスの下に敷いて睡眠・覚醒・起き上がり・離床の状態や心拍数・呼吸数(推定値)を計測できる非装着・非侵襲のセンサーです。「眠り SCAN eye」は居室にカメラを設置して映像を記録するとともに「眠り SCAN」が検知したご利用者の状態を映像と共に確認することができるシステムです。

当施設では、これらの情報を次の目的で利用いたします。

- ① ご利用者の生活習慣や状態に合わせたケア・見守り
- ② ご利用者に適したケアプランの作成・提供およびその効果の検証
- ③ ご利用者の体調変化の気づき
- ④ その他、ご利用者への介護の提供全般

なお、ご利用者へのサービスの提供にあたり、これらの情報をご家族やケアマネージャー、提携先医療機関に提供することがあります。

「眠り SCAN」「眠り SCAN eye」の設置及び情報の取扱いについて同意をいただける場合には、本書の末尾にご署名をお願いいたします。

特別養護老人ホーム グリーンウッド奥多摩 御中

上記の説明を受け、上記目的で「眠り SCAN」「眠り SCAN eye」を設置すること、および上記の第三者に情報を提供することに同意します。

年 月 日

氏名：

【導入による成果】

- 前に挙げたご利用者のケースでは、11～1月に計9件(3件/月)の事故が発生していたが、導入後の2～4月では計5件(1.6件/月)と、ほぼ半減する結果となった。さらに5～7月までの3か月間では1件の事故も発生せずに経過することが出来ている。
- 他のご利用者に対するケース記録を参照しても、センサーが作動しカメラ映像を確認し、訪室する必要があるか否か(カメラでの見守りだけでOKか)を判断している記録が多数残されているので、訪室回数の軽減にも寄与していると思われる。
- また、ご利用者の睡眠パターンがある程度把握できるので、各ご利用者に合った最適なオムツ交換のタイミングを計ることが出来ている。
- 職員に対するアンケートの結果では、
「映像で見て確認できるため、安心して対応できる」
「危険な時にもすぐに駆け付けることができてよいと思う」
などの意見があった。

- 当施設においては、令和5年8月下旬から9月中旬の間、新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生してしまったが、その際に、
 - ①レッドゾーン隔離の必要となったご利用者の居室に眠りSCAN、眠りSCAN eye を設置し、PCやタブレット画面上にて呼吸数や心拍数の監視・睡眠状態の把握、室内状態の把握をすることができた。
 - ②レッドゾーンへは予防着一式を装着し入る必要があるため、カメラなどで中の様子がある程度把握し入室回数を少なくすることができており、職員の感染リスクの軽減と共に、コスト削減にもつながった。
 - ③中の様子がわかるので、レッドゾーンへの入室回数の減少は、職員の心理的・肉体的な負担軽減にもつながっていると思われる。

● 副次的な効果

あるご利用者(ご利用者①)の居室に眠りSCAN、眠りSCAN eye を設置していたところ、たまたまカメラの角度の関係から意図していなかった奥のベッドのご利用者(ご利用者②・③)も映り込んでおり、この方々に何らかのトラブルが発生した際にも、迅速に駆けつけることが出来ている。広範囲を捉えることができるカメラの副次的な効果と言えるのではないか。



導入に関わった職員の声

- 介護担当職員の全員が機器使用に対し積極的であったわけではなく、消極的な職員も多かった。実際に機器使用が有用であることが理解されると、興味を持って使用してくれる職員が増えた。しかし、無関心な職員も未だにしているのが現状。さらに普及を推進していく必要があるとともに、効率的な方法も模索していきたい。
- 導入により便利なのが理解され、一部職員から「この人にも使いたい」などの積極的な意見が出てきたことにより、機器が足りなくなり調整が大変になった。可能であれば機器の追加導入も検討したい。
- 「小さな成功事例」から、職員の間で「使える」という意識が高まっていき、結果として当初の狙いである「業務負担の軽減(74%の職員からの声)」「事故発生件数の減少(58%の職員からの声)」という目的が達成できているレベルにまでなれた。とても良いことだと思う。

取組中に発生した課題と乗り越えるための工夫

発生した課題

- PC画面上で見守りを行っていると、他のご利用者の対応で職員が動いているときにセンサーが作動した場合、すぐに確認・対応が出来ないことがあった

工夫

- メーカーに問い合わせ、タブレット(iPad)にもアプリをインストールし、職員が移動する際にはタブレットを携帯し、すぐに確認・対応できるようにした

現在の状況

- 現在は問題なく使用することが出来ている



取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- 組織内での合意形成の重要さ・困難さと、合意形成をうまく進めるための手段が今回の取り組みの過程でよく理解できた。
- 試行的導入後の「小さな成功事例」の共有により、職員の間で「この機器は良い」という理解が進み、積極的な使用につながった。
- 導入後に行った職員に対するアンケートで、概ね良い効果が出ていることがわかり本当に良かったと思う。それと共に、周知をもっとしっかりと行う必要があることも痛感。職員をひとりも取り残さないようにしたい。
- 業務の効率化達成による変化として、余裕ができた時間に居室内の整理整頓・清掃などの頻度を増やすことができ、ケアの質が向上した。また、導入によりさまざまなやりとりが生じ、職員間のコミュニケーションも向上していると感じる。

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

- 次世代介護機器を導入することにより、明らかな効果が得られると思います。これは職員募集の際のPRポイントになったり、休職や離職対策にも良いのではないかと考えていますので、積極的に導入していただきたいと思います。
- 導入の目的と施設内での合意形成、導入後の職員間への周知が重要ですので、ここはしっかりと行っていただければと思います。
- ひとりでは絶対にできません。如何にして周囲を巻き込んで進めていくかがポイントだと思います。報・連・相を意識して進めていくことが大切です。また、若い職員にも経験を積んでもらう目的でプロジェクトに参加してもらおうと良いです。施設の将来を担う人材もぜひ育成していきましょう。

業務の面白さ、やりがいにもつながっています。

